

上げたのは水彩繪一斑と云ふ本であるから其を見て覺ゆる様に
したまへ」と云ふて親切にも書物と繪端書とを送られた、其時
は嬉しくつて、詮方がなかつた。之れからは本を讀んだり又
は畫いたり一生懸命になつて其れに取りかゝつた之れが抑々の
水彩畫を習つた始めてある……愛する水繪君よ永久に余を導き
給へ。

告 白

親愛なる『みづゑ』讀者諸兄姉に一寸御報告申上候、さて昨秋私
共同好の者相圖りて、葉月洋畫會と申す畫會を設立致し候。本
會は洋畫に興味を有する者相集りて、相互に思想及び技術の發
達をはかるを以つて、目的と致し候。目下會員は、二十餘名有
之桃山中學校圖畫教師淺野快泉先生を主任とし幹事三名にて、
其内二三の人を除く外は皆學業の餘暇に、高尚なる娛樂として
樂しく斯道を研究致し居るものに御座候。會員の進歩を圖る手
段として、毎月一回例會及寫生會を開催し、又順送畫帖とて會
員の製作品を集めたる回覽雜誌を發行致し居り候。猶毎年一回
展覽會を開催し公衆の縦覽に供するはずにて、又近々より會員
中の有志のみモデルを備ひて、夜間人體寫生を研究致す都合に
御座候。左に本年一月中の重なる事項の大畧を記し申し候。
二日、臨時寫生會、場處は大和田附近參會者は主任を始め會員
五六名本年の初寫生である。傑作をてかして大天狗な人もあれ
ば大切の御辨當を川の中へ初落しして、新年早々に泣きつ面の

人もある。中には寒さに耐へ兼ねてか、寫生中途で、道具を往來
へほうり出した儘、堤の影で、こつそり焼芋の初かちりをやつ
てる人もあつたには恐れ入つた。歸りは皆んな一所に電車で歸
つた。

十一日、例會、幹事氏原愁夢君の宅に開く。出席者は十名、出
品數水彩貳十枝、氏原君のデッサン十葉、外に參考品として、
主任の水彩油畫等十葉程と三宅、大下兩先生の水彩畫が三枚あ
つた。午後一時開會、最初に會員の互評あり、次に主任の親切
なる批評あり、終つて御茶に御菓子が出る、御互に自慢話や失
敗談に花を咲かし、餘興として、氏原君の薩摩琵琶、住田君の
ハーモニカ、加藤君の象の眞似事あり、夕頃散會す。

十五日、順送畫帖發行。繪畫十五葉、記事は寫生會及び例會の
記、名匠教訓其他二三あり。

三十日、靜物寫生會。午前九時より淺野主任の宅に開く、出席
者十餘名、モデルは椿、野菜、等三種あり。スケッチブックに、
こつ／＼と寫生してる人もあれば四ツ切を、かつぎ出して、う
ん／＼云つてる者もある。午後四時散す。以上

因に當地方の熱心なる同好者は、御入會下され度規定御入用の
御方は、二錢郵券封入、小生迄御申越し下され度候。草々(大
阪市西區西長堀南通五丁目三菱社宅乙部笑波)

*

*

*

*

*